

# 上 映 映 画 解 説

1954, 7 ~ 8

国立近代美術館 フィルム ライブラリー



No. 25

## 特別映画鑑賞会について

フィルム・ライブラリーでは、その事業の一部として、歴史的価値のある映画を鑑賞し研究する会を開催しております。今回はその第一回として、今までは少し観点をかえ、日本の古典的記録映画と初期漫画映画の特集として次の作品をとり上げました。

### 旅順開城と乃木將軍

製作 英国アーバン会社  
撮影 ロゼン・シヤアル

### 白瀬南極探検記録映画

撮影 田泉 保直

### 伽羅先代萩

Mカシィ商会大正四年作品  
主演 中村歌扇

### 蛸の骨

横浜シネマ商会昭和二年作品

監修 青池 忠三  
漫画 村田 安司  
撮影 上野 幸清

〔解説〕映画の発生が、リュミエールの「汽車の到着」や「水をかけられた撒水夫」のようないわゆる実写ものから出発したことからわかりますように、カメラの記録性は映画の最も重要な特質の一つといえます。この映画の記録的な特質を生かしたものとしてみれば、例えばニュース映画などがその典型的なものといえます。ところが、劇映画にもその影響が見られます。又映画の理論や運動にもこの記録性に基くものが重きをなしています。

この特別鑑賞会は、映画が最初からもつていた記録的性質について、ごく初期の時代における作品を検討

し、当時の映画界を知る参考にしようとするもので

旅順開城と乃木將軍——いうまでもなく明治三七（一八〇四）年日露戦争当時の記録映画です。当時の映画が単調な喜劇や実写になつて、漸く見世物化してしまつて一般の関心が薄れて来たのに対し、このような「実戦記録映画」によつて人々に映画の価値を再認識させたわけです。三七年二月に火蓋が切られた日露戦争の映画の東京での初公開は、五月一日から神戸錦町の錦輝館で行われ、旅順陥落実況が三八年八月に大阪道頓堀の中座で公開されたのをはじめ各地で大歓迎をうけ、戦時気分での活動写真興行時代が到来しました。ただこのような空気に便乗して内外ともに相対しいかがわしい戦争映画も可成り往行して、たようです。わずか六〇年余りの歴史しかもたない映画の世界では、五〇年前の作品は全く貴重な資料といえますし、又文化史の記録としても大変興味があります。

白瀬南極探検記録映画——白瀬中尉の南極探検は、イギリスのスユット、ノルウエーのアムゼンらの南極探検に続いて行われた明治時代の日本の歴史的な壮挙の一つで、明治四三（一九一〇）年一月に開南九で東京品川から出航し、四五年一月南極大陸に達し、同年六月に東京芝浦に帰港しました。この映画は、同探検後援会長大隈重信伯の依頼をうけた当時の映画会社M・パター商会（梅屋庄吉）が、同社大久保撮影所のカメラマン田泉保直氏を派遣し、探検に随行した同氏によつて撮影された日本におけるこの種の長篇記録映画の第一号といえる貴重な作品です。当フィルム・ライブラリーでは、その記録作成事業の手はじめとして牛原虚彦・島崎清彦両運管委員により、昨年九月福島県在住の田泉氏から当時の事情を聴取し調査をしました。

伽羅先代萩——明治末期から大正初期にかけて流行した舞台の実写もの一つで、文楽や歌舞伎で有名な「伽羅先代萩」の御殿の場と床下の一部を記録した作品です。当初は義太夫出語りて上映したもののため鑑賞の

便に略筋を紹介します。

奥州五十四郡の城主伊達義綱は吉原の傾城高尾太夫の色香に溺れ政務を顧みなかつたので、幼君鶴千代君が跡目を相続します。奸臣仁木弾正以下その一味はこの機会にお家横領を企みます。忠義一徹、男まさりの政岡の苦心は一通りでなく、若君の御側の一子千松と付添い飯も自ら御殿で炊くという用心ぶり。時に弾正一味の梶原の妻栄御前が將軍家の下され物とて菓子折を持参しますので、予ての言いつけ通り一子千松が毒味をする、とみるみる毒が廻つて之を刺しますが、企みを見せじと一味の八汐は懐剣で之を刺しますが、政岡は涙一滴流しません。悪人栄御前は之を見て政岡も悪人の同復と思ひ込み、一味の連判状を手渡して帰ります。政岡は千松の死骸にとりつき「毒なと云うて叱るのに、毒と見えたら試みて、死んでくれいと云う様な胸怒な母親が又この世にあるものか」と前後を忘れて泣きくずれますが、折から打つて掛る八汐を子の敵と刺し殺します。——（当時の映画界と主演の歌扇については後記を御覧下さい）

蛸の骨——一枚ずつ描いた絵をコマずつ撮影して作る動画映画は、現在の映画界では重要な一つの分野となつていて、「ミッキイ・マウス」「白雪姫」「ダンボ」等の数々の名作を生み出したウォルト・ディズニイや、「ベティ・ブーブ」「ボパイ」等のフライシャー兄弟など余りにも有名ですが、日本における初期の作品の一例としてこれをとり上げてみました。トッキーとは全く違つた着色の効果など興味があります。（当時の漫画映画については後記を御覧下さい。）

### Mカシィ商会と中村歌扇

明治末期の日本映画界は、横田商会・吉沢商店・合資会社福宝堂・エムベター株式会社等の四商社が錫を削つていたが、大正元年九月に以上の四社が合同して「日本活動写真株式会社（略称日活）」が創立された。然し独自の事業は破綻が生じ易く、浅草六区の映画街の如き、十数軒の映画館が軒並に「日活映画」一本槍では、飽きられるのも無理はなかつた。二年一月には早

くも東洋商会、続いて大阪にハリマ商会、三年三月には天然色活動写真株式会社が夫々創立し、日活に對抗した。Mカシー商会は、エムパターの梅屋庄吉が、四年の秋に改称して再興したもので、撮影所は大久保百人町にあつて五百坪ばかりの地に建物が設けられた。

天幕を引き出せるようにした高さ四間半位の柱が百坪程の土間の四隅に立てられて、四本の柱の上の四角に梁を渡し、奥行へ針金を何本も張通し奥の梁から天幕を引出せるようにして光線の加減をする仕組になつてゐた。その外には大道具と小道具の置場があり、十二三坪の化粧部屋兼衣裳部屋が建てられてあり、屋根があるわけでもない野天の舞台の方では雨が降れば撮影が出来ず、電気が入つてゐるわけでもないで夜が近づくと仕事にならぬという風であつた。然しこれはMカシーだけのことでなく、当時の撮影所はほとんどがMカシーの撮影所と同じ状態であつた。

当時の撮影機は、二百呎のフィルムが入り、撮影技士が俳優の動作に依り緩急よろしく手で撮影機のハンドルを廻し、そしてマカジンに装填されたフィルムが無くなるまで撮影技士は「待つた」と声をかけ、俳優はそのまゝの姿勢で技士のフィルム装填を待つて、その続きを開始したものであつた。従つて現在の映画の如き大写も、場面転換も、移動撮影も無く、最初から終まで撮影機据え放しの舞台劇そのまゝのものといえる。

エムパターからMカシーにかけての俳優として代表的なものは、女優者中村歌扇(明治二二、昭和一七)であつた。明治四十一年の夏浅草伝法院の庭を舞台にして「曾我の討入」を撮影し、九月に浅草大勝館で上映したのをはじめ、「伽羅先代萩」「絵本太功記」等を撮影したが、特に「伽羅先代萩」はその代表作で興行的にも大当りし、大勝館では一日二十四回上映したという記録が残されてゐる。中村歌扇は娘美団という劇団の座長で、他に中村歌江、石川雛子、中村桃代等があつた。歌扇はエムパター解散後大阪その他に出演し、四年秋Mカシー商会の創立と共に東京へ帰り、神田三

崎座改め神田劇場へ梅島昇一座と合同して、Mカシー商会と提携の映画と実演に進出したのであつた。

中村歌扇は東京生、本名青江久、屋号松鶴屋。  
(柴田勝)

## 初期の漫画映画について

漫画映画が初めて発表されたのは一九一一年にウインゾア・マツケイによつてなされ「ウインゾア・マツケイが動く漫画を作りました。」と云ふ題名であつたと云うことであるが、その原画は、夫々完全な背景と人物を一枚づつ描いたものを四千枚程作り、それを撮影したと云う話を聞いている。

其の後、一九一三年にブレイ(英)の作品が封切られ、我国へも輸入された。大正十二年の関東大震災以後に入つた「キリンの首はなぜ長い」「狗のまだらはこうして出来た」などは漫画の前後に実写を入れた面白い作品であつた。

我国でも大正八九年頃から当時の天活会社で下川四夫氏が漫画映画の製作を始め「凸坑の新画帳」を発表し、更に日活向島撮影所に於て、北山清太郎氏、山本早苗氏等が製作を開始した。然し大震災以後は山本氏も独立して文部省の漫画映画を作り木村伯山氏も多くの短篇作品を発表した。

私が漫画映画に手を出したのは昭和二年、横浜シネマ商会に在勤中のことで、青地忠三氏の御協力を得て第一回作品「猿が合戦」を作り続いて第二回作「虫蛸の骨」を発表した。

当時の製作方法は現在のようにセルロイドに動画を描くとは異つて、ケント紙に黒インキで動画を描いて、鉄で切りぬき、背景の上へピンセットで一枚づつ置き変えては一コマづつ、撮影をして作りあげたもので今から想えば幼稚なものであつた。(村田安司)